

10月号



まちづくり通信



発行 飛騨高山まちづくり本舗
〒506-0845 高山市上二之町44-4
まちひとぷら座かんかこかん
電話&FAX 0577-33-5282
m-honpo@takayamashishouren.net

かんかこかんHPより、バックナンバーをご覧いただくことができます

積極的に巻き込まれる！ことから はじまる 参加のまちづくり

夏休みの作品から見える まちづくりの視点

第 14 回こどもまちづくりコンクール
出展総数 75 点。入選作品から数点を
ご紹介します。



千恵とお母さんの自転車の旅

三枝小 6 年 大坪千恵さん

お兄ちゃんが6年生の時に取り組んだ夏休みの作品は、千恵さんにとって憧れでした。そして、自分が6年生になった今年、「私もやりたい」と挑戦しました。それは、お母さんと一緒に行く自転車の旅。そして、日差しが強くなるラジオ体操前に高山のあちこちに一時間、毎朝、親子でかけました。あいさつをした人数も記録にとりました。仕上げは、道中一泊して郡上の祖父母の家へ自転車での旅。向かう途中、パンクというトラブルも通りがかった人が助けてくれて無事到着。

女兒のがんばり、そして同行するお母さんの日々の寄り添い。暑い夏でしたが、早朝の親子の時間の積み重ねは、もっと熱く、たくましく、やさしく、すがすがしい、そして、何よりもかけがえない時を刻みました。

こどもたちの興味、関心に積極的に巻き込まれていく。そんな大人たちが増えてくることで、こどもと大人の境界がなくなって、課題をともに乗り越える仲間となります。次代を担うこどもたちのためにできること、それは大人であるあなたや私が一歩踏み出すことから始まります。

タウン情報誌をつくらう

花里小 6 年 脇田真悠子さん

この地域には、いくつかの地元密着型のタウン誌があります。地域住民にとって貴重な情報源。それはこどもたちにとっても同じ。そんなタウン誌に注目。直接、編集室を訪れ、プロの編集者から地域情報誌づくりを習った真悠さんは、この夏、オンリーワンのタウン誌編集に取りかかりました。取材対象は学校の先生であり、近所の人たちであり、友だちであり多くの情報の結集がかけがえないタウン誌として実を結びました。

公園へ行こう

南小 6 年 中谷祐豪さん

大人たちはよく公園が少ないと口にします。祐豪さんは市内の公園をくまなく回り、遊具の内容などだけでなく、縦横歩いての歩数で広さを実感したり、自分なりに個々の公園の特徴をネーミングしていき見事な公園カルテに仕上げました。まずは自身が公園に行ってみることの大切さを教えてくれます。

まちづくり丹生川町根方

丹生川小 6 年 渡瀬葉月さん

4年前に自分が住む丹生川町根方の様子をまとめた作品は当時、関心心と呼びました。6年生になった葉月さんは再び根方の今を調べました。人口は74人→58人などの現状だけでなく、1軒だった空き家は5軒になり、畑の作物は大根から荒れ地に変化など細かな変化にも気付いていきます。自分の住むまちが好きだからこそ余計に憂いを感じる部分も強いのでしょ

僕のまちクリーンチャレンジ

花里小 6 年 八賀出海さん

出海さんは小学校の1年生から6年生までの6年間、夏休みに周辺に落ちているゴミを毎日拾い続け、どの地域にどのようなゴミがどれだけ落ちていたかを毎年つぶさに記録としてまとめていきました。ポイ捨て防止ポスターも提案。でも、たばこの吸い殻の数は、減ることなく捨て続けられ今年には629本を拾いました。その姿に大人たちは何を考えればいいのかいでしょう。

ご案内

こどもまちづくりコンクール作品展

★南小学校会議室

10月24日(日) 11時半～4時

★市役所会議室

12月11日(土)～12日(日) 冬のあったか緑日にて

古式ゆかしく 車田で稲刈り

9月17日、雨で翌日に延びた松之木町車田の稲刈りがありました。

まず、水滴を竿で払いつつ作業は始まりました。揃いの法被、鎌とくじり(束にした稲穂をしぼる際の仕上げにつかう木の棒)を入れた木の箱を腰からさげ、檜笠という出で立ちの車田保存会のメンバー10人が、外から内に向かって刈り進みます。サクサクという音とともにのどかな音調の稲刈り唄が響きわたります。約二時間半で稲刈りは完了しました。

この日の見学者は報道関係者とアマチュア？カメラマン。車田をあとにする頃は、とりまく人も去り作業をされる10人だけになっていました。夕方、テレビ各局から茶の間に稲刈りの映像が流されました。しかし、日本で二ヶ所だけ残る貴重な光景の現場は、次世代や次々世代が居合わせない、寂しさと物足りなさを感じさせる情景でした。

♪二百日に風さえ吹かによ え～
米のまんま食うて 米のまんま食うて
願ひましよう～♪



最後には丸い田んぼと切り株の跡が
描ききれいな円形模様があらわれました

10月3日は、まちも人も健康的な一日でした

10月3日の日曜日、高山のあちらこちらでにぎわいと笑顔いっぱいイベントが繰り広げられました。まちなかでも、いくつかの行事があり、今年とはとりわけ、まちも人も健康的な時間を過ごすこととなりました。例えば・

まちを歩こうキャンペーン

「みんなDE ウォーキング」開催 午後2時～午後5時 西小～商店街



市民の健康づくりと魅力ある商店街づくりをすすめるサンセットウォーキングプロジェクト。商店街を夕食後などのウォーキングの場として市民に活用してもらおうという、市商連が初めて手がける試み。

10月3日午後2時、西小学校に集まった老若男女総勢96名。関西から来高されたウォーキングインストラクターの植田有亮さんを講師に、ストレッチの後、シューズの履き方から始まった講習は、姿勢・目線・足の踏み出し方・手の振り方と基本の手ほどきを受けました。これだけでもうっすら汗をかいたところいよいよ本番。6種類にコース設定された商店街周辺2kmウォーキングコースに出発。

今回は、健康とともに抽選でお土産までゲットされた方もみえ、大盛況でした。

心身のトータルケアを

「市民健康まつり」開催 午前10時～午後2時30分 市庁舎・保健センター

21回目となる市民健康まつり。「つくり健康、見直そう生活習慣」のテーマとともに、今年「あなたも健康づくり はじめませんか」をサブテーマとしました。

26団体が出展されたコーナーは、2,000人を超える来場者でにぎわいました。今年乳がんの早期発見・早期治療を啓発する「ピンクリボンキャンペーン」も実施、乳がんに対する知識を深められました。



まちをきれいにする心を育む

「飛騨高山クリーン作戦」開催 午前9時～午前11時 八幡地区・宮川周辺

清掃活動(ごみ拾い)を通じて、環境美化に対する意識の高揚を図る取り組みは今回で21回目。市民、事業所、団体、行政からなる高山市快適環境づくり市民会議の主催で、秋の高山祭区域や宮川周辺を約100名の市民などが参加しました。

集まったごみの量はおよそ50kg。それでも普段からこのあたりは、地域住民の方がボランティアで清掃活動をされていることもあり、道路などにはごみはほとんど落ちていないという参加者の声も聞かれました。



講演会 第35回 高山市社会福祉大会 鎌田實(医師・作家)講演会 『くらべない生き方～人生で本当に大切にすべき10のこと～』

第35回の記念大会にふさわしく、36年間、医師として地域医療に携わり、チェルノブイリとイラクの救援活動に取り組む鎌田さんの講演。ベストセラー「がんばらない」等著書多数。

◆11月13日(土) 午後1時30分～4時

◆市民文化会館大ホール ◆入場無料

◆主催・問合せ:高山市社会福祉協議会 35-0294

ミュージカル チーム石塚・新生ふるさときやらばん公演

まちと人に元気を!! 『トランクロードのかぐや姫』



町の商店街は、その町のシンボルです。商店街にシャッターが増えると町全体がさびれて…。今回のミュージカルは、100人の市町村長にインタビューし、地域の元気を題材に制作しました。ものがたりは、一人の旅する娘がシャッター通りになりかかった商店街に降りたって…(チランから抜粋)。観劇対象は中学生以上。

◆11月18日(木) 午後6時15分開場(6時45分開演)

◆市民文化会館大ホール ◆入場料3,000円(前売り)

◆主催:高山公演実行委員会 ◆問合せ:090-1092-1879(村田さん)

連載 高山市の子育て支援色々⑥

『困っていたからこそわかる 病児保育』



2009年4月、子どもにとって、病気であっても少しでも普段のその子のペースで過ごせるための居場所として、病児保育室が、高齢者支援複合施設内に開設されました。

この日は三人の子どもさんが来室、看護師さんと保育士さんの三人がお世話をされていました。病状によってはスタッフ一人が付き添って別の小部屋で過ごします。子どもたちは、病気でも元気があるので、午前中は工作などをして、午後は静かに過ごすなど状態に合わせての生活。その間、二時間おきの検温や食事、排泄の記録、そして体調が記録され、迎えに来られた保護者に一日の様子が伝えられます。一年半たった今では子育ての相談を受けることもあるそうです。

飛騨ではじめてとなる病児保育は、現在、高山市の委託を受けて運営されています。実現にいたる背景には、母親として仕事をあきらめたり、こどもにあわせて仕事をセーブせざるをえなかったりした先輩世代が、自分たちも困ったことのある経験から、子どもが病気になったときの親子の大変さを少しでも軽減できればという願いがありました。子育てと就労とのバランス、人それぞれの子育てに対する価値観などの社会提起でもあるのでしょうか。

「子どもさんが体調をくずして苦しい事に加えて、大人が困ってあわてたりしないように、保険のつもりでまず登録をして欲しいです。前もって一度足を運んでいただき、利用する際のしくみをわかっていただいたうえで、必要な時にご利用ください。」

病気になっても親子が本来のペースをくずすことなく安心して過ごせる病児保育の存在を通して、みんなで子育て!を担う、地域の姿が見えました。



※今回の内容は、病児保育室プティそれいゆ(0577-35-2525)の看護師白田陽子さんにお話をうかがいました。写真提供プティそれいゆ

ギャラリー

まちかどに 似顔絵ギャラリー (国分寺通り)

国分寺通りにあるうづば玩具店の空きスペースを活用しショーウィンドに登場した似顔絵師更田幸代さんによる作品ギャラリー。

「まちの元気印。応援団」メンバーの思いと、お店の活用して欲しい気持ちから実現しました。写真よりもリアルな似顔絵の世界に思わず足を止め見入ってしまいます。

※10月～11月展示予定(作品は定期的に入替)

「まちの元気印。応援団」インフォメーション

平成22年10月15日現在、個人40名、団体36組織(のべ構成員1,120人)の方が登録されています。

問合せ:高山市中心市街地活性化推進室(応援団事務局)

TEL35-3426(直通) FAX35-3167

飛騨高山まちの元気印。検索



こどもひろば・情報ひろば・まちづくりひろば
まちひとばら座かんかこかん
開館時間 10時～5時(年末年始を除き無休)

かんかこかん前で5月～10月に月一回フリーマーケットを出店されているのは、納涼緑日の出店でおなじみの高山地区更生保護女性会の方々。行き交う人が会話を交わしながら足を止めて行かれます。掘り出し物色々、どうぞおでかけ下さい。

★フリーマーケット 今年最終は、10月28日(木)10時～12時です。

秋の野菜いっぱい★金曜野菜市 毎週金曜日10時～